



日本の野生動物



日本列島は、南北3000kmに渡って細長く、緯度的には亜熱帯から亜寒帯まで含み、高い山を持つ島々、複雑な海岸線、四季を通じての降雨による豊かな森林、湿原、池沼等変化に富んだ自然環境により世界でも有数の生物相を持っています。またアジア大陸と太平洋の間に位置するため、飛来する渡り鳥の多いことも特徴となっています。日本の動物相は種類が多いばかりでなく、固有種が多いことも特徴です。これは、アジア大陸に接近していたため、過去にはしばしば大陸とつながったり、離れたりをくりかえし、動物の進出と孤立によって特有の進化をし、日本列島の温暖な気候と豊富な降水量、複雑な地形環境などに支えられ、絶滅することがなかったのです。現在、日本列島および周辺海域には9目30科87属148種の在来哺乳類が知られています。このほかに移入種（国内移入種を含む）が6目14科19属21種あり、それらを含めた総数（重複種を除く）は9目35科98属165種です（改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 哺乳類2002）。鳥類は18目74科542種に外来種の26種を加えた568種が分布します。（日本鳥類目録改訂第6版）。その中で1回ないし数回しか記録のない、いわゆる迷鳥が約110種あり迷鳥が多いことも日本の特徴と言えます。爬虫類では2目14科47属97種・亜種が、両生類では2目8科15属64種・亜種が知られています。（改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 爬虫類両生類2000）。

「日本の哺乳類相の特徴」



日本は南北に細長く、北海道と沖縄諸島とは気候もちがいが、哺乳類相もことなります。北海道の哺乳類相は、シベリア系の動物としてヒグマ、クロテン、エゾリス、シマリス、ユキウサギなどが住んでいます。本州との共通種としては、キツネ、タヌキ、オコジョ、イイズナ、モモンガ、トガリネズミ、アカネズミなどがあります。本州から南だけに産する哺乳動物に、ニホンザル、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカ、ヤマネ、ムササビ、モグラ、ヒミズ、カワネズミなどがあります。日本南部の沖縄、奄美などの南西諸島は長期の孤立化と小島のため特殊化が進み、センカクモグラ、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、オキナワコキクガシラコウモリ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコなど10種類が固有種になっています。



エゾヒグマ エゾリス エゾシマリス キタキツネ エゾタヌキ エゾモモンガ

いろんな生き物がいるからボウたちがいるんだ!

人間の活動は、野生生物に影響を与えてきました。人間が増えるにしたがって農地の開拓や、木材、金属、石油など、さまざまな原料を得るため世界中の豊かな自然の多くが破壊され、そこに生息していた野生生物が滅ぼされてきました。動物の一種や二種いなくなっても今の我々に関係ないのではと考える人もいるのではないのでしょうか。確かにすぐには、目に見えての障害はないかもしれませんが、だからと言って、現状のままでよいわけではありません。地球上にはいろいろな生物が、おたがいに複雑多様なつながりを持ち、微妙なバランスのもとで生きています。

生物一種の絶滅はその生物が属している生態系がくずれることにもなります。

野生生物の絶滅は人間を含めた全ての生物にとって生き残るチャンスが失われていくことを意味しています。

私たちに子孫に残さなくてはならない大切な環境を守る義務があるはずですよ。

野生生物を追い詰めている原因を知り、開発と保護とを両立させる方法を考えて実行していくことが必要です。



注目! 野生生物の減る原因はなんだろう?

- 生息地の破壊 — 開発によって森や原野を切り開く。湿地や干潟、海岸などを埋め立てる。
- 環境汚染 — いろいろなゴミをポイ捨てる。家庭排水や工場排水で水が汚れる。有毒化学物質を自然に放出する。
- 地球温暖化 — エネルギーをたくさん使ってCO₂を大量に発生させ、地球温暖化、気候変動を引き起こす。
- 乱獲 — 食べる、漢方にする、ペットにする、ハンティングを楽しむなどで激減する。
- 外来種の影響 — もともとその地域にいなかった生きものを持ちこみ、在来種の生息を圧迫する。



野生生物を守るために 私たちに出来ることをしよう!

- 自然の中に出かけたとき、ゴミをポイ捨てしない。落ちていたら拾う。
- 野生生物に餌をやらない。
- 省エネルギーやリサイクルに努める。
- 動物園や水族館、図書館などで野生生物のことを調べる。
- 野生生物を守るために活動しているグループに参加する。

野生生物と「絶滅の危機」 WWFジャパン

絶滅のおそれのある日本の野生生物 (日本版レッドデータブック)

日本版レッドデータブックは環境省編集による日本の絶滅のおそれのある野生生物について絶滅の危険度を評価し選定したものをまとめたリストで、野生生物の保護を進めていくための指針として活用されています。ランク基準は絶滅の危険度により絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧IA種(CR)、絶滅危惧IB種(EN)、絶滅危惧II種(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)の8カテゴリーに



日本版レッドデータブックのランク分けの種数

動物種	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	LP
哺乳類	4	0	12	20	16	16	9	12
鳥類	13	1	17	25	47	16	16	2
爬虫類	0	0	2	5	11	9	1	2
両生類	0	0	1	4	9	5	0	4
魚類	3	0	29	29	18	12	5	15
			絶滅危惧種245種					

▲ 編集：環境省自然環境局野生生物課 発行：財団法人 自然環境研究センター

分類され、このうちCR、EN、VUを絶滅危惧種としています。絶滅危惧種の哺乳類はエラブオオコウモリ、ツシマヤマネコ、ニホンアシカなど48種類。鳥類はチシマウガラス、カムリワシ、ルリカケスなどの89種類。爬虫類ではイヘヤカゲモドキ、キクザツワヘビなど18種類。両生類ではアヘサンショウウオ、イシカワガエルなど14種類。魚類ではイトウ、アカボウズハゼなど76種類がリストアップされています。また無脊椎動物では423種が、植物では1726種が、絶滅危惧種としてリストアップされています。

希少動物の保護・動物園水族館「種の保存」の取り組み

現在、全国の90の動物園と68の水族館が加盟している日本動物園水族館協会では、1988年から「種保存委員会」を発足させ、希少動物の保護増殖を国際的な連携のもとで進める体制を整えました。レッドデータブックに記載されている動物をはじめ、国際血統登録種136種を中心に国内動物園水族館で飼育する個体141種を計画的繁殖の基礎となる血統登録をして管理するとともに、技術マニュアルを整備し、共同繁殖を実施するなどして、種の保存（遺伝的な多様性に留意した繁殖群作り）を進めてきました。この間、ニホンカモシカ、ゼニガタアザラシ、ニホンコウノトリ、オオサンショウウオ、スナメリなど94種類の繁殖計画が作られ、成果をあげています。北海道の動物園ではシマフクロウやオオワシ、オジロワシ、タンチョウの増殖に成果をあげ、野生復帰（すでに絶滅あるいは激減してしまった地域に、繁殖施設や別の生息地から個体群を復活させることで、十分な計画性と継続性が要求される。）にも取り組んでいます。日本の各地での水系で姿をけしつづける希少淡水魚類の保全計画にも1991年から取り組み、ミヤコタナゴやエソトミヨ等18種類の飼育下での保護・増殖技術の確立を目指し、成果をあげています。



生息域外保全について



生きものを、生息地（餌を採ったり子どもを育てたりして生活している地域）で守ることを生息域内保全活動と言います。しかし、生活する場所自体が無くなるなど、本来の生息地での生存が危ぶまれてきている生きものも多くなってきています。このような生きものを、人の手によって生息地以外の場所や地域で守り増やすことを生息域外保全と言います。日本動物園水族館協会に加盟している動物園や水族館は生息域外保全活動の基盤として、これまでの経験や技術を活かし、生きものの絶滅を防ぐ活動をおこなってきました。絶滅の多くの原因を作ったのが私たち人間であることをあらためて考え直し、様々な生きものと生息環境を大切にしなければなりません。稀少になった生きものを絶滅から守ることは、動物園や水族館の重要な役割です。円山動物園では、オオワシ、イヌワシをはじめダイアナモンキー、ユキヒョウ、ヨウスコウワニ、マレーバク等の絶滅危惧種で、国内初の飼育下繁殖に成功し、増えた動物達は海外をはじめ全国各地の動物園に、繁殖を目的とした動物の貸借契約「ブリーディングローン」により送られています。



イヌワシ ダイアナモンキー ユキヒョウ ヨウスコウワニ マレーバク

「野生動物保護基金」・「日本の野生動物が危ない」日本動物園水族館協会